

④ 水そうの中には、すきとおった水と、水の流れにゆらめく何本もの水草、三匹の赤い金魚がすいすいと泳いでいる。

ふわふわと
+

その水草の間を



⑤ はじめは八之助の話を聞いてたお殿さまでしたが、さんまを買わそこねたことを聞いたとたんに顔の表情がなくなり、「どうか、さんまは無いのか。」

とぽつんと言うと、うなだれてしましました。

+

にこやかに

しょんぼりと
△



⑥ 八之助は、お殿さまがさんまを食べたがっているとは思つていませんでした。お殿さまが好きなのは、たいのような高級な魚とばかり思つていたのです。しかし、実はお殿さまにとつては、たいよりもさんまの方がめずらしい魚なのです。

+

それほどまでに

よほど
+